

2008年3月18日

国土交通大臣 冬柴 鐵三 様  
文部科学大臣 渡海 紀三朗 様  
文化庁長官 近藤 信司 様

北海道自然保護協会会長	佐藤 謙
北海道自然保護連合代表	寺島一男
富川北1丁目沙流川被害者の会	
十勝自然保護協会会長	安藤御史
ザ・フォレストレンジャーズ代表	市川守弘
自然林再生ネットワーク代表	前田菜穂子
環境学習石城塾	石城謙吉

重要文化的景観「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」の  
選定区域に、聖地チノミシリなどアイヌ文化の重要な区域である平取ダム建設  
予定地を組み入れることを求める要望書

標記の重要文化的景観「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」は、  
貴職、文化庁が、北海道沙流郡平取町におけるアイヌ文化の振興に関して選定したもので  
すが、その選定区域が非常に限定され、国土交通省が推進する平取ダム予定地の重要な区  
域を外している点で、大きな問題と考えます。ここにその理由を詳細に明記して、選定区  
域を流域全体で見直し、とくに平取ダム建設予定地をそれに組み入れることを強く要望す  
る次第です。

## 記

### 1. 経緯

平成9（1997）年に「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び  
啓発に関する法律（アイヌ文化振興法）」が施行され、平成17（2005）年には、それに基  
づいた「アイヌの伝統的生活空間の再生に関する事業（イオル再生事業）」の基本構想が  
取りまとめられた。平取町における同事業は、国土交通省により平成20（2008）年度から  
開始される。他方、文化庁は、文化財保護法（平成17年改正）における新たな保護制度の  
下で、平成17～18年度に文化的景観保護推進事業（文化庁補助事業）を行い、平成19（2007）  
年7月、特に重要な文化的景観である重要文化的景観として、平取町の沙流川流域を「ア  
イヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」に選定した。

他方、国土交通省は、平成15（2003）年5月に「アイヌ文化環境保全対策調査委員会」  
を設け、平成18年3月に「アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書」を公表した。その  
報告書には、平取ダム建設予定地にある沙流川流域の重要文化的景観地としてチノミシリ  
などが明記された。

### 2. 重要文化的景観「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」の意義

文化財保護法では、文化的景観を「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風  
土により形成された景観地で国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」

としており、そのうち重要文化的景観の選定基準は「我が国民の基盤的な生活又は生業の特色を示すもので典型的なもの又は独特のもの」とされている。

平成19年8月に選定された「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」について、文化庁のホームページにおいて、「アイヌ文化の諸要素を現在に至るまでとどめながら、開拓期以降の農林業に伴う土地利用がその上に展開することによって多文化の重層としての様相を示す、極めて重要な文化的景観」と記されている。

アイヌ初の国会議員となられた故萱野茂博士は、「平取ダム建設が予定されている沙流川流域・額平川の源流は日高山脈最高峰のポロシリ岳であり、沙流川流域に暮らすアイヌ民族の守り神として特別な存在で、その川岸に連なる岩群はチノミシリとしてその守り神がおりるところである。もう一方の宿主別川は一日中日が当たり昔から豊かな川の恵みを得ることができるイオルとして生活に欠かせない重要な川である。」と説明されている。

この説明をさらに補足すると、沙流川とその支流額平川の流域は、アイヌ文化にとって流域全体が重要とされている。その理由として、第一に、この山を望む地域に住むアイヌにとって、ポロシリ岳（日高山脈の最高峰、幌尻岳）がポロシリカムイの座すところ、最も聖なる山として信仰の対象とされてきた。そのため、この流域は、アイヌの世界観にとって重要な意味を持っている。第二に、この流域は、アイヌの伝統生活と密着したアイヌ語地名が多く残され、アイヌの説話伝承に裏打ちされた流域の景観環境が道内では抜きんでているため、アイヌ文化の存在を際立たせる土地となっている。この流域では、アイヌの伝統生活や説話と、地名ならびに地名を意味する環境が一致する文化的景観が残されているのである。第三に、この流域には、通称「アオトラ石」の原石（緑色片岩）が河川の運搬によって散布されているが、この石は、はるか縄文時代より東北地方まで運ばれ、石斧の材料として使われてきたものである。第四に、この流域の人口は、現在でもアイヌの占める割合が北海道内で群を抜いて多く、このことは、歴史的にみて、この流域が多くの人口を支える各種の資源（アオトラ石、毛皮、木材、動植物、その他）を産していた証拠と捉えることができる。第五に、アイヌ人口の割合が高いことによって、この流域では豊かなアイヌ文化が生まれ、100年を超える同化政策の下においてもアイヌ語をはじめとする文化を継承してきた。それゆえに、明治以来、国内はもとより外国からも多くのアイヌ文化研究者がこの流域を訪れ、多くの情報を提供してきた。さらに、故萱野茂博士に代表される、みずからがアイヌ文化の継承者であるとともに他に向けて情報発信するたくさんのアイヌがこの流域で活動している。

このように、現在までアイヌ文化が途切れず継承されてきたことは、この流域の、自然環境ならびに文化環境の特色によるといえる。したがって、沙流川およびその支流額平川の流域は、アイヌ文化を次代に受け継いでいく重要な地域であることは明白である。

### 3. 重要文化的景観の選定区域が限定されている大きな問題点とそれに対する意見

当該地の重要文化的景観は、沙流川およびその支流額平川流域において、平取ダム予定地を避けるようにした、A～Fの7区域に限定して選定されている。すなわち、A：北海道日高地方における里山景観、B：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観、C：峡谷との対照が際だつ開拓地の景観、D：牧野・牧野林とスズラン群生地の景観、ならびにE・F：自然とアイヌの伝統、開拓の営為が織り成す多文化な景観である。

これらは、国土交通省「アイヌ文化環境保全対策調査委員会」による「アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書」に指摘された、文化的景観として重視される地域・区域を網羅

していない点が大きな問題点となる。上記の総括報告書によると、沙流川・額平川流域におけるチノミシリとして10ヶ所、ポロシリ岳、湧水地などチノミシリ以外の意味づけがなされている9ヶ所があるので、これらはすべて重要文化的景観地とみなすことができる区域である。ところが、前者のチノミシリとしての6ヶ所は、平取ダム建設予定地にあるが、すべて選定区域から外されている。また、額平川流域に192ヶ所のアイヌ語地名が残されているが、そのうち15ヶ所が平取ダムの水没予定地になっている。すなわち、平成17～18年度の文化庁補助事業における平取町文化的景観検討委員会の協議結果に基づいた区域の選定は、国土交通省による調査包括報告書と整合性がない結果に終わっているため、改めて、両者を照合し、まずもってアイヌ文化振興を根本的に検討する必要がある。

前項で述べたように、アイヌ文化にとって、沙流川およびその支流額平川流域の全体が重視されている。それに対して、重要文化的景観に関して平取ダム建設予定地を外して7区域に限定した区域選定は、その区域にのみアイヌ文化を押し込めること、アイヌ文化を矮小化することになる。他方で、平取ダム建設が、豊かな自然環境に対して、実際には、この流域に生活する人々の生活環境に対して大きな悪影響を及ぼす危険性が高い。それについて、私たちは別途、国土交通省に対して意見を述べているが、この要望書では、上記の点に関して、以下の内容を述べておく。故萱野茂博士の『アイヌ語辞典』によると、沙流川は、シ・シリ・ム・カ（シ＝本当に、シリ＝あたり、ム＝つまる、カ＝させる）、すなわち、土砂が流出し、あたりが詰まる川と呼ばれてきた。実際、二風谷ダムでは、建設後約10年間で、当初計画の200年分の土砂がすでに堆積しており、アイヌ語に示された流域の特徴が実証されている。二風谷ダムは、この点から、非常に危険なダムになっており、その問題を棚上げにしたまま上流に平取ダムの建設が計画されている。

以上の状況は、国土交通省がアイヌ文化振興・イオル再生事業とダム建設事業の両者を扱い、後者を前提として前者を軽視する姿勢から生じたことであり、アイヌ文化にとっても自然環境・生活環境の保全に関しても、大きな欠陥となっている。アイヌ文化振興は、本来、ダム建設とは全く別個に考え強化すべきことであるのに対して、ダム建設計画に関連して矮小化することは決して許されることではない。アイヌ文化振興をダム建設とは無関係に考えて強化する観点から、改めて、流域に住む人々の声を改めて聞く必要があると考える。平取ダム建設予定地は、アイヌ文化振興にとって非常に重要であるので、まずもって、そのことを最も重視すべきである。

2008年7月、北海道洞爺湖でG8サミットが開催され、先住民サミットの開催も予定されている。沙流川・額平川流域は、北海道の先住民であるアイヌ民族にとって重要な文化地域であるので、この流域でダム建設を前提にして文化的景観の選定区域を限定することは、アイヌ文化振興策として余りにも不足である。この事態は、諸外国から大きな批判を受けるに違いない。ちなみに、アメリカ合衆国では、先住民の漁業権のために既存のダムを壊し、河川の自然再生事業が行われており、我が国とは逆の事例となっている。ダムを新たに建設する自然環境面からの問題点に加えて、ダム建設を前提にしてアイヌ文化を軽視する状況は、非常に大きな問題点と考える。

以上を踏まえて、私たち7団体は、重要文化的景観に、チノミシリを含む平取ダム建設予定地を含み、沙流川と額平川の流域全体を選定区域に拡大するよう、選定区域を改めて検討し直すよう、強く要望する次第である。